

件名： JHIF 通信 Vol.9 第 1 回会議開催のお知らせ（第 2 報）

【JHIF通信】水素エネルギー産業創出へのネットワークマガジン
Vol.9 2005/07/25 <http://www.ueri.co.jp/jhif.html>

- 目 次 -

Webサイト・アドレス変更のお知らせ
JHIF第1回会議 開催のお知らせ(第2報)
プログラム
パネル討論の概要、パネリスト紹介
ブレンストーミング会議 - プレゼンの概要
JHIF通信について
お問い合わせ窓口

Webサイト・アドレス変更のお知らせ

日本水素エネルギー産業会議のWebサイト・アドレスが下記の通り変更になりました。今後、情報を更新していきますので、皆様のアクセスをお待ちしております。
ご意見、ご希望も随時受け付けております。

新Webサイト：<http://www.ueri.co.jp/jhif.html>

JHIF第1回会議 開催のお知らせ(第2報)

JHIF第1回会議の日程と概要につきお知らせします。なお、開催時刻は第1報で通知した時間より、遅くなりました。
詳細は追ってお知らせ致します。

日時：2005年8月24日(水)14:15～17:30 (受付開始 14:00予定)

会場：芝浦工業大学 芝浦キャンパス 本館4階
JR山手線・京浜東北線 田町駅東口より徒歩3分
都営三田線 三田駅より徒歩5分

内容(予定につき、変更する場合があります)

パネル討論

(テーマ)「原子力による水素供給：実現へのステップ」
(コーディネーター) 堀雅夫氏(原子力水素研究会代表)
(パネリスト) 宅間 正夫 氏(日本原子力産業会議 副会長)
(パネリスト) 塩沢 周策 氏(日本原子力研究所大洗研究所 所長)
(10分程度の質疑応答の時間をとる予定です。)

第1回ブレンストーミング会議

(テーマ)「水素エネルギー社会に向けての新しい日豪関係(仮題)」
(コーディネーター) 笠木 伸英氏(東京大学大学院 教授)(予定)
(プレゼンター) ハイドロ・タスマニア、タスマニア大学

協賛：社団法人日本原子力産業会議

パネル討論の概要

エネルギー用途の水素の供給において、原子力はその特長を生かした貢献が期待されている。このパネルでは、原子力による水素の供給について、現在進められている研究開発の現状・課題、今後の目標・方向、実現へのステップなどを、原子力産業と原子力研究開発の立場から展望する。

(パネリスト紹介)

・宅間 正夫 氏(社団法人日本原子力産業会議 副会長)

1961年 東京大学工学部電気工学科卒業。

東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所長、同取締役原子力本部副本部長兼技術開発本部副本部長を経て、社団法人原子力産業会議 常務理事、2004年より同副会長。

・塩沢 周策 氏(日本原子力研究所大洗研究所 所長)

1974年 東京大学大学院工学系研究科 原子力工学専攻(博士)修了

日本原子力研究所、同大洗研究所 高温工学試験研究炉開発部 原子炉開発室長、核熱利用研究部 次長、核熱利用研究部 部長を経て、2004年1月より同所長。

(コーディネーター紹介)

・堀 雅夫 氏(原子力水素研究会 代表)

1957年 東京大学工学部・化学工学(修士)修了。

日本原子力研究所 主任研究員、動力炉核燃料開発事業団 大洗工学センター所長、同理事を経て、現在、原子力水素研究会 代表。

近著:「原子力水素生産」(英文・米国原子力学会2004年発行)

堀氏は、長期的かつグローバルな観点から、エネルギー供給システムにおける原子力による水素生産システムに関して研究活動を行うとともに自ら原子力水素研究会を主催されている。

ブレーンストーミング会議概要

本ブレーンストーミング会議において日豪で進められている様々な水素関連の実証プロジェクトの協力の可能性について議論し、また、新たな日豪協力プロジェクトの立ち上げについて具体的な提案を行う予定。また、日豪協力プロジェクトに対するオーストラリア側からの資金補助の可能性についても提示する。

(プレゼンのコンテンツ(予定))

・タスマニアでの風力水素プロジェクト

・ディーゼル水素混合エンジンの開発

・来年春に行われる水素エンジン自動車によるラリーの紹介 他

詳細は続報にて

(プレゼンターの紹介)

ハイドロ・タスマニア(Hydro Tasmania:<http://www.hydro.com.au/home>)

は、オーストラリア最大の水力発電所(1万ギガワット)をはじめ、27の水力発電所、2つのウインドファーム等を保有しているオーストラリアでも有数の電力供給会社である。合計発電能力は2,568MW。近年は、再生可能エネルギーの開発に力を入れており、150メガワットの風力発電所を開発中である(政府試算では3,000GWの発電能力)。オーストラリアの全再生可能エネルギーの60%を担っている。

一方、オーストラリアでは水素エネルギー研究・開発プロジェクトが120件以上立ち上がっており、ハイドロ・タスマニア及びタスマニア大学の共同開発が複数進められている。

プロジェクトリストは、<http://www.ueri.co.jp/jhif.html> で公開。

参加費

会員団体 3名様まで無料

非会員団体 おひとり30,000円(税込み)(当日現金払い)

主催

日本水素エネルギー産業会議事務局

お申し込み方法

申込締切日:8月23日(火)

ファックス(03-5408-0058)またはe-mail(tajima@ueri.co.jp)で

以下の項目をお知らせ下さい。

お申込みの際に、件名を「8月24日 JHIF第1回会議 参加希望」として、

- ・貴団体名(フリガナ)
- ・部署・役職、参加者貴名(フリガナ)
- ・電話、ファックス、電子メールアドレス
- ・会員/非会員の別

お申し込み受け付け後、確認のメールをお送り致します。3日以内にメールをお受け取りにならない場合には、事務局までご連絡下さい。

JHIF通信について

ご愛読いただき、ありがとうございます

本メールは次の方々にお送りしています。

学識者.....43名

企業・団体関係.....462名

政府関係.....30名

議員関係.....21名

自治体.....68名

計.....624名(2005年7月25日現在)

JHIF通信は、JHIF事務局が情報発信するメール通信です。

このメールは、事務局スタッフが名刺交換させていただいた方々、及び2004年12月16日のJHIF設立発表会及びJHIFセミナーなどに参加された方にお送りしています。

お問い合わせ窓口

配信中止、配信アドレスの変更、その他のお問い合わせは、

田島(tajima@ueri.co.jp)までご連絡下さい。

ご所属、メールアドレスに変更があらわれる場合もお知らせ下さい。

日本水素エネルギー産業会議(JHIF)事務局

<http://www.ueri.co.jp/jhif.html>

〒105-0001

東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックス4F

(株)ユニバーサルエネルギー研究所内

TEL:03-5408-1118(代) FAX:03-5408-0058